

銀色の道

「智」と「心」

塾長 山田勝登

Vol. 18 のトピックス

★通信(番外編)

★42.195.キロ考

★よもやま話

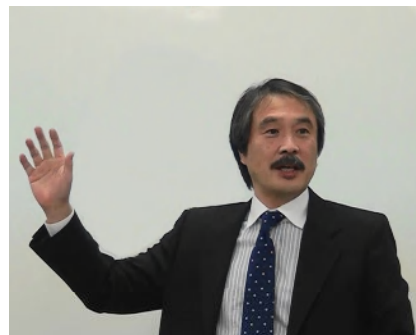
★編集後記

みなさんこんにちは。半月前まで半袖でいられた思いきや、あっという間に寒くなりましたね。

昨日、東北楽天イーグルスが、読売ジャイアンツを破って優勝しました。



土曜日（2日）に、現在日本でNo.1の投手、30連勝中の田中投手を打ちこんで、



逆王手をかけたときには、ジャイアンツが有利だと思っていましたが、いやいや、美馬投手、則本投手が8回まで「0」で踏ん張りました。1球1球丁寧に投げ込んでいましたね。投手ばかりがクローズアップされますが、嶋捕手のリードは素晴らしいの一言。

何か投手に話しかけて、投手が何度もうなづくシーンが印象的でした。

もちろん投手の能力もありますが、それを引き出す捕手がいなければ、数字ほどは勝てないのです。

嶋捕手に興味を持って調べてみました。岐阜の海津市出身なんですね。

高校は野球で有名な、名古屋の中京大中京に進学します。高校では補欠、それも二塁手の3番手。本人は監督にマネージャーとしてやりたいと申し出ましたが、「けが人が出るかもしれん。チャンスはまだある」と諭され慰留されたことがあります。

大学時代の監督で、仙台育英と東北高校の監督として27回の甲子園出場経験が有る竹田監督は「嶋ほど人間性やコミュニケーションに優れた学生や、頭脳、心、洞察力を持った選手は見たことがな

い」「嶋は相手を見抜く洞察力と投手の力を引き出す能力がある。監督が何を考えているかをくみ取ってゲームメイクできる。佐々木（横浜）の天職がクローザーなら、嶋は捕手が天職」と高く評価しています。

元楽天監督の野村克也氏は、捕手は頭脳が良くなければいけないという持論から、コーチに頼んで正捕手候補数名の中学時代の通知票を取り寄せたところ、嶋捕手がオール5（9科目）だったことからルーキーでの一軍起用を即決したといっています。

すごいですね、オール5ですよ。嶋捕手は野村監督に試合中でも怒られ、時には監督の横で立たされて“公開説教”を受けることもあったといっています。



（そういえばかつてのヤクルトの名捕手、古田選手もそんなかんじだったような）
正捕手になったのは3年前から。大学進学

の理由は「野球のためだけではなく教師になりたかったから」。当時は内野手。

レッドソックスの上原投手同様、アマチュア時代、決して陽の当たる道を歩いてきた選手ではないのです。人間、一生懸命頑張っているからこそ、僥倖に巡り合えるんですね。

さて、田中投手の話に移りましょう。第6戦で監督に直訴して最終回まで160球を投げきりました。普通では翌日のベンチ入りはありません。ところがまたまた直訴して、ベンチ入りはたまた最終回にマウンドに上がりました。星野監督は彼の心意気をくみ取ったんですね。9回の仙台球場の異様な雰囲気、TVでも分かりました。

彼がマウンドに上がった瞬間、落合元中日監督の顔が浮かびました。そして2007年の日本シリーズ第5戦、完全試合目前の山井投手の交代を思い出しました。そして落合監督なら投げさせないのではないだろうか？とも思いました。

160球を投げた翌日、疲労の極致にいる投手をマウンドに挙げることは、相当の勇気が要ります。案の定、最初は球が浮き気味でした。セットを2本打たれ、ホームランが出れば同点の場面まで行きました。

最後は三振で、ゲームセットとなるのですが、勝ちにこだわるなら、則本投手の続投です。星野監督自身の性格でしょうかね。

「意気に感ずる」

私？はい、星野派ですね。

といって、今年の中日を見てもお分かりの

ように、T 監督と比べるのは悪いですが落合監督の手腕はピカーですよ。

本当は19時から仕事で野球をみる事ができないはずが、某事情で見ることができました。

結果は、田中投手にも、楽天にも、ファンの方々にも最高のエンディングで終わったんですが・・・昨夜のマー君の、鬼気迫るものがありました。この分ではどうやら来年は海の向こうに行きそうですね。残念というのか楽しみというのか？

あ〜一度でいいから、ビールかけがしたい！ 長い前置きになりました。

銀道 vol.18 発進します。

◆教室便り◆

学志舎通信

学志舎ではイベントごとに、担当コーチたちが通信を書いています。7月の「七夕大賞」は担当がいなかったため、飛んでいました。よって私がお届けいたします。

毎年6月の最終週から、教室で生徒のみんなに短冊に願いを書いてつります。そして、コーチたちに自分の感性で3点を選んでもらいます。その数の多さで「一席〜三席」を決めます。

願い事に優劣はありません。ただコーチたちの心を動かしたかどうか、時に受けた

かどうかでこれは決まります。



さて、発表です。

育真館

一席

附属中2年 R. Sさん

「一日が36時間になりますように（特にテスト前日）」

よく分かりますその気持ち。先生もそうでした。本当はね、前日は軽く間違いチェックをして早く寝るくらいに試験準備しておくといいんですよね…。コーチ陣も、大学の試験に際し、今もその思いが強いようで？支持を集めました。



二席

岐阜小6年 A. Kさん

「すてきな・すてきな人になりたい！！」

具体的にすると

人のためになる人に近づけますように」
いや〜学志舎の教育理念そのものです。ありがとう！何の為に今学んでいるのか、そ

のためですよね。彩さん、毎月の塾の「清掃活動」も今のところ皆勤賞ですね。

三席

附属中2年 M. Oさん

「みんなの願いがかないますように」

はい、自分の願いではなく「人様の願い」というところがコーチたちの心に響いたようですね！

至誠館

一席

長良西小6年 R. Y君

「親切な人になりたい」

うんうん、そうだよね。10月の坐禅研修で京都からの帰り電車の中でお年寄りの方に席を譲る、学志舎の生徒の姿を見て、うれしくなりました。世の中の法則「人に与えたものは、必ず返ってくる」ではありませんが、親切な人には、必ずそれなりのことが返ってきます。それを期待せずに粛々と実行しましょう。ダントツ一位でした。



二席

附属中3年 Y. O君

「おいしいたこ焼きが食べたい」

岐阜ではおいしいたこ焼きがないのでしょうか、やはり大阪に行かなくては？

お母さんの手作りだときっとおいしいですね。



三席

長良西小6年 N. Kさん

「将来いい大人になる」

Nさんが描くいい大人とはどんな姿でしょうか？コーチ陣も少し考えさせられたようですね。昨年に続き連続の受賞です。

選には漏れましたが、気になる「願い」を紹介しましょう。

至誠館では昨年の覇者、長良高校2年A. M君の「伝説になる」

昨年の「気の強いヒーローになる」も受けましたが、今回もコーチたちの心に何やら期待を抱かせるものがあったようですね。

育真館では 岐山高校3年 M. Kさんの「受験を楽しめますように」

それができるといいですね。入試までの過程もそうですが、

「やり切った」という思いで本番もリラックスして臨んでほしいと思います。



以上七夕大賞でした。また来年の7月まで！

赤ペン

今年から「赤のボールペン」を生徒の皆さんに無償で配っています。そしてインクを使い切ったら、使い切った芯と新しい芯を交換しています。そして芯を交換するたびに、1ポイント差し上げています。学習すればするほど、ポイントが付くようにしました。



さて、10月末までに一番赤ペンを使ってくれた生徒は、聖マリア女学院高校3年のM. Tさんです。写真はTさんの空芯5本と皆さんに配ったボールペンです。

彼女は、過日見事に京都産業大学（法）の合格を勝ち取りました。マリアには指定校枠でいける大学が数多くあります。しかし谷川さんは、自分が行きたい大学に勝負をかけました。担当の安藤コーチと一生懸命プレゼンを考えました。そして、中学生以上の皆も知っているように、教室で、皆の前で申し出てプレゼンの練習をしましたね。あの気迫、すごかったですね。終わった後には、「何か気がついた点があった

ら教えてください！」

私は一つ質問しました。それは伊奈波で先にやったときの事務長の質問と同じだったとか。

さて、みなさん、ガンガン〇付けをやって、赤ペン解答を記入して、芯を交換に来てくださいね！

土曜日夜のご招待

9月28日の土曜日から、毎月第2、4土曜日に中学生を夜の7～10時まで、勉強会に無料で招待しています。

それは何か？

「OK学習法」は予習で進んでこそ、威力を発揮します。よって、予習に入るべく、「OK学習法」が効果的に機能できるように招待を始めました。第一回目はほとんど生徒を、招待しました。

至誠館で、私は生徒達にある提案をしました。「時間は10時までやけど、やり残しがある生徒で、それ以降も残って勉強したい生徒は、先生は何時まででもお付き合いします！10時で帰って、残りを家でやってもかまいません」

10時を過ぎ2人が残りました。東長良中1年S. Oさん、長良中3年A. Kさん。11時にOさんが範囲を終了。

私はKさんに声をかけました。「帰って残りをやってもいいよ」彼女は言いましたね、「塾長、最後までやります」

この返事を聞いたとき、私は鳥肌が立ち

ました。彼女のヤル気がひしひしと伝わってきたからです。彼女がやり終えて教室を出たのが23時47分。私は爽やかな気分で、帰途に着きました。

二人のおかげで、私が帰宅後、美味宅後美味しいビールを飲むことが出来たことは想像に難くないと思います。



Kさん、前期期末試験では50点、4科目アップ。(学年平均点は20点下がっていたので、実質70点アップ) 10月の第2回岐阜新聞テストでは、5科目アップ、偏差値で6.3Pアップです。

Oさん、8月末の全国模試で英語と理科の2科目で100点を取りました。二人とも夏プロからずっと頑張ってます！

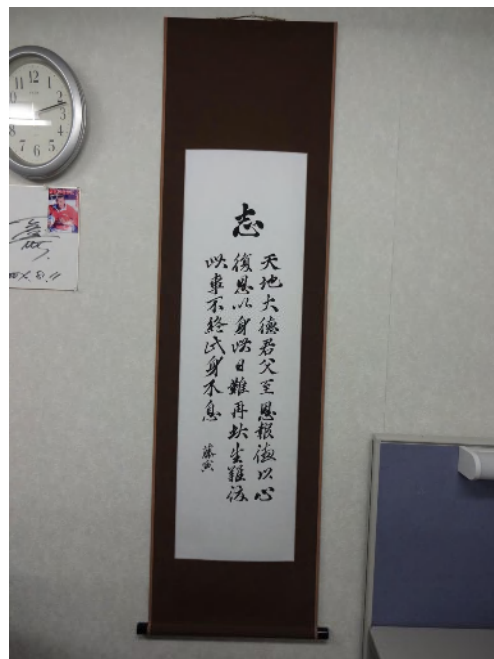
神様は必ず見えています。努力は嘘をつきません。但し、時としてタイムラグがある場合があります。形として現れるまで、いかに継続できるか。そこがポイントです。大人の役目は、生徒を、子どもを信じて励まし続けることだと思っています。

吉田松陰先生の掛け軸

2年前のGW、念願かなって萩の松下村塾へ行くことができました。その時に私が師と仰ぎ、尊敬する松陰先生の書を購入しました。6月、そのままではもったいないと思い、装丁してもらい両教室に飾ることにしました。



育真館は高校生の教室へ階段を上ったところの逆の壁、



至誠館は高校生の教室の正面にかけています。

松下村塾は本当に小さな庵です。わずか8畳の間で先生は塾生達を教えました。萩にはそれまで150年続いた有名な藩校「明倫館」があります。9000坪の広い敷地。今は小学校になっています。

あの明治維新で活躍したのは、藩士の子弟が通う、所謂エリートたちの明倫館の塾生ではなく、郷土、町人が通う、松下村塾の塾生でした。

久坂玄瑞、高杉晋作、山県有朋、伊藤博文、木戸孝允などなど。

松陰先生がこの国のあるべき未来を、これから自身がどう考え、どう行動すべきなのか、いかに塾生達に熱く語ってきたか。時には塾生達と畑を耕したり、川で泳いだり、肌と肌の触れ合うような付き合い方をしてきたのです。学問のための学問ではなく、本当の活きた学問を教えたのでしょう。私は学志舎をそんな塾にしたいと常々思っています。

散らない桜

以前から教室に桜の木を飾りたいと思っていました。そして頭の中にはその構想がありました。それは私の故郷の「座敷雛」に使われる、そこの家族で作った桜をもらってくることでした。

座敷雛？

はい、私の故郷、愛媛県八幡浜市真穴地区に昔から伝わる伝統行事です。

旧暦の桃の節句にあたる4月2、3日に長

女の初節句を祝うため、内裏雛を中心に小道具、盆栽などで倉庫や座敷を飾りつけ、立派なひとつの庭園を作り上げます。雛大工の棟梁を中心に親戚、近所の人たちと、一ヶ月間かけて準備します。

県外からも観光バスで観光客がやってきます。30年前の姪の時には、私の実家の座敷雛が雑誌朝日グラフの一面に取り上げられました。



どの家でも必ず内裏雛の前に桜を飾ります。幹と枝は本物ですが、花はティッシュペーパーで作られています。これはそれぞれの家庭でだいたい夜2ヶ月くらいかけて作ります。それをもらいに4月3日に帰郷しました。

私のように桜を欲しがめる人は結構いるもので、1軒の家から全部というわけにはいかず、都合3軒の家からもらってきました。

長い時間をかけて作った座敷雛の命は短く、わずか2日間です。4日の朝一番から、解体を始めます。早くしないと娘が行き遅れる（嫁に）という言い伝えがあるか

らだそうです。

今育真館に飾っている桜は、幹と枝を持ち帰り、大工さんに作ってもらいました。



「散らない桜」でこれからの入試を突破して欲しいと思っています。

豪華絢爛たる座敷雛の様子は今回の付録のDVDでご覧下さい！

至誠館の改装

この数年、育真館では改装を何度かしてきました。至誠館は8年前の大改装以来、そのままでした。本当は春休みには改装をしたいと思っていましたが、夏プロに入って1週目で決心しました。

「やるのは今だ！」

すぐに椅子と机をインターネットで発注しました。そして8月の4日（日）、手伝いの要請に快く「0.2 秒でハイ！」と返事をくれた岐阜高校2年H君、Y君、長良高校2年M君の3人が、午後1時教室に集合。

まずは南教室のブースを北教室に移動。

これが大変でした。連結したパネルを外すのが簡単にいかないのです。一人がパネルに乗っかり体重をかけ、3人でパネルを引き抜く。最初は一枚ずつ移動していましたが、最後ははずすのが大変なので、3枚いっぺんに運ぶ荒業？悪戦苦闘のブース移動が終わると、イスと机の組み立て。

3人にその作業を任せると、私は電気屋さんに変身。パネルと同時に電線も取り外しました。それをつなぐ作業です。電気屋さんに頼む予定でしたが、予算の節約で、やれるところまでやってみようと挑戦。何度もやり直し。うまく接続できて全部の蛍光灯が点灯したときには思わず「やった！」と一人でガッツポーズ。

その後、3人に合流し組み立て作業。終了したのが午後7時。流れる汗が乾いて、シャツには白く塩が吹いていました。



ブースがなくなり広々とした南教室

翌8月5日の月曜日、教室に来た生徒たちはびっくり。「広くなってよかった」と評判も上々でした。



高校生のマンツーマン&自習室の北教室

H君、Y君、M君、ありがとう！

「頼まれごとは、試されごと」

見事にこなしてくれましたね。以来お礼の食事会がまだです。3人の都合がよいときにいつでも言って下さいね。

おいしいものを食べましょう！！

◆42. 195 km考◆

悪魔の囁き

今年は故障で本当に走れていません。年末の恒例行事「尚子ロードでフルマラソン」に向かって3日の日曜日、5月の長良川清流マラソン以来の10^{キロ}を、絶対に走ろうと尚子ロードへ行きました。

3時50分、雲行きが怪しい空を見上げながらスタート。

金華橋を過ぎた1.5^{キロ}地点のアスファルトの継ぎ目にシューズがひっかかり転倒。

右の手の平と右ひざの皮がむけ、転んだ時の手のつき方が悪かったのか、左手首を

捻挫。手の平と、膝から流れる血がなかなか止まりません。「雨も降るし、手も痛いし、血も止まらないし、今日は5^{キロ}で帰ろう」と走りながら頭の中で考えていました。折り返しての金華橋を過ぎたあたりで

「あ、悪魔の囁きだ」

今日は絶対に10^{キロ}走ろうと、ここに来たのに、やらない理由を考えている。

よくあるんです。自分を追い込む走りをして「きついな〜」と思う時。まだスロージョギング、LSDという練習方法を知らなかった2年前、夏場の午前中走っていた時、何度もありました。

人は嫌なことをしているときとか、苦しくなると、頭のどこかで「やらない理由」を考え始めます。本当にもっともらしい言い訳がドンドン浮かんできます。そして自分を納得さすのです。

これが「悪魔のささやきです」

皆さんも経験したことがあるでしょう？

自分で言い訳を考え始めたら、思っ下さい。

悪魔が囁き始めた。

シューズ

ちょうど一年前のことです。木曽三川公園リレーマラソンの1週間前の土曜日、あるセミナーに参加するために名古屋へ行きました。

それは自称「シューズマスター」N氏のセミナーでした。その4、5日前、ネットでジョギング関係を見ていたら野村氏のブログに行き着いたのです。実はそのブログ、半年ほど前に見たことがあったのですが、その時にはたいして気にもしなかったのです。しかし、なぜかその日は違いました。何か感じるものがあった、セミナーの告知に即反応してしまいました。

N氏はアシックスのフェザーシリーズの開発にかかわったこともある人です。自分のシューズを持ってくるのが義務付けられていました。靴底の減り方でアドバイスをもらえるのです。

目からうろこのセミナーでした。普通、スポーツ店でシューズを購入しようとすると、必ず1cm～1.5cmは大きめのシューズを勧められます。これが大間違い。

N氏曰く

「だったら、サイズ表示は何の意味があるんですか？」

爪がすれて黒ずんだりした時に、クレームが来ないように、営業サイドでそう言っているらしいのです。足の実寸が25cmならば、シューズは25cmのものが合うように開発サイドでは作っているとのこと。

一昨年初めて 42.195^{キロ}を走った時、17^{キロ}地点から左足の薬指と中指に痛みが走りました。これは今考えると、大きなシューズの中で、足の指が遊んでいたためと思われれます。昨年の大晦日、きちんとしたサ

イズの、N氏推薦のシューズで走るとまったく痛みがありませんでした。ただ、慣れるまでに少し時間はかかりましたけど。

そしてシューズの選び方。

N氏ははっきり言いました。「ナイキのシューズは走る靴ではありません。確におしゃれです。街歩き用にしてください。」とバツサリ。私のナイキのシューズもお蔵入りです。メーカーはアシックスかミズノがよいそうです。

実はこの2社は値引きが少ないのです。定価はほとんど同じでも、外国のメーカー（米国のN社、NB社、ドイツのA社、P社など）はネットで安く購入できます。本当に良いものは、安売りはしないということでしょうか。私もそれまで履いていたA社、NB社のシューズから、ミズノ、アシックスに買い替えました。

NB社のシューズ、履きやすかったです。柔らかく、幅が広く、ゆったりしてノンストレス＝足に優しい？実はそれがダメなのです。故障の原因にもなります。骨の無いシューズはトレーニングにならないのです。逆に、硬くて一本骨の通ったシューズは最初は履きにくい。そんな走りにくいミズノ、アシックスのシューズに慣れると、それまで走りやすいと思っていた楽なシューズにはもう戻れません。

これは何をや言わん。

今回は「新しいモデルが進化するわけではない」「シューズのヒモは、寄せて上げてギュッ？」をお届けします。

◆四方山話◆

朝のワイドショーでは連日、ホテル&デパートの虚偽表示の報道。まあ、私にとっては全く縁のない話です。一度でいいから払い戻し請求に行く身分になってみたい気もしますが（笑）

しかし、最初のあの阪急阪神H社長の会見は、見ていて不快になりましたね。案の定、クレームがバンバン届いたのでしょう、その後退陣会見を開くまでに追い込まれました。かつての雪印の社長を思い出しました。全くお客様の方向を向いてないんですね。

その後の他のホテル、デパートの謝罪会見もしかり。皆、今のうちにどさくさまぎれに謝っとけ！と言わんばかりの連日の会見でしたね。

10月7日のブログにも書きましたが、私が「半沢直樹」に共鳴したのは何だったのか、それはシリーズ第3作「ロスジェネの逆襲」の367ページ、半沢が部下の森山に言った言葉の中にありました。



「仕事は客のためにするもんだ。ひいては世の中のためにする。その大原則を忘れたとき、人は自分のためだけに仕事をするようになる。自分のためだけにした仕事は、内向きで、卑屈で、身勝手な都合で、醜く歪んでいく。そういう連中が増えれば、当然組織も腐っていく。組織が腐れば世の中も腐る。わかるか？」

謝罪会見したお偉い？方々には是非とも聞いていただきたい言葉ですね。

さらに部下に

「戦え、森山。そしてオレも戦う。誰かが、そうやって戦っている以上、世の中捨てたもんじゃない。そう信じるのが大切なんじゃないだろうか」

しびれるセリフです。

TBSはいつ「半沢直樹2」を放送するのでしょうか？楽しみです。

余談ですが、全編を通して特に好きな場面が2つありました。前半の大阪編では、妻の花が半沢に

「ぜってえ～負けんじゃね～ぞ！」

と言った場面と、後半の東京編で、半沢が金融庁検査の対策で悪戦苦闘、行内に残り、夜中まで仕事をしているとき、同期の渡真利が突然やってきて「ほい、牛井」と手渡し、近藤と3人で食べた場面です。

愛妻にああ言われたら、勇気百倍ですね。そして、あれが男の友情ですよ。持ってきたのが「牛井」ってところがまたまたいいんですね！（笑）

人は「本気」についていく…かな。

◆編集後記◆

大学入試制度が今の中1から変わります。センター試験、各大学の2次試験はなくなります。高校2年時から「到達度テスト」とやらが始まります。これまでのノウハウが全く使えなくなります。

各大学の試験は、面接と小論文。ここにきて、リクルートが無料の「受験サプリ」というものを大々的にTV宣伝しています。受験生には「リクルート」と言う会社、あまりなじみがありませんね。

「面接」といえば、就活ではリクルートの独壇場。面接に関してのノウハウはどここの予備校も持っていません。今のうちに名前を売って、5年後には一挙に刈り取ろうと言う算段なのでしょうか。

学志舎も大学受験を目指してこの5年、塾を再構築してきました。個人塾としては胸を張ってよい内容だと思っています。しかし、このノウハウも5年後には使えなくなってしまう。制度改革にむけて手をこまねいてはいけません。5年なんてあっという間ですからね。

来年からの私が参加する勉強会、セミナーはこの辺りの内容が増えてきそうです。5年後も大学受験に関して、地域の個人塾の一番を目指して頑張ります。

しかしこの改革、本当に改革になればいいんですが・・・少し心配です。

今日は日曜日です。1週間かかってこのニュースレターもやっと完成です。

今週から中学校の後期中間、2学期期末試験が始まります。お約束の「当日朝学習」もやりますよ！

事務長手作りのオムスビ、お味噌汁。



そしてアンケートのご要望にお応えして、前期中間試験から、オロナミンCドリンク、チオビタドリンクなどをさらに用意して、試験の応援をパワーアップしています。

今回の試験は「平均30点アップ大作戦」と銘打って、全員で5科目平均30点以上アップを達成すると、もれなく「道頓堀」へ行って「食べ放題！」を私がおごるという企画です。

その代わり達成できなかったときには、残念賞として、冬プロの24日当たりにショートケーキ。しかし、中学生諸君からは一人20円ずつ徴収して、私だけ豪華なケーキを食べます。

中学生諸君、必ず全員で「ポンポコポ〜ン」を聞きながら、腹いっぱい食べるぞ！

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。では次号まで。

塾長 山田勝登